



トラストだより

冬号

公益財団法人 奥山保全トラスト会報 VOL.19/2021. 1.1

岐阜県
in 本巣市根尾

第6回トラスト地ツアー開催報告

紅葉真っ盛り！植生豊かな森の中へ！

2020年のトラスト地ツアーは、岐阜県本巣市根尾にある根尾越波(ねおおっば)トラスト地(232ha)で開催しました。コロナの感染拡大防止のため現地で集合・解散の参加を募り、スタッフを含め16名でツアーを行いました。

当日は、根尾越波集落にて当財団にこの山を売ってくださった松葉五郎さん(90)の集落の方々と交流しました。その後、トラスト地内にある20mの落差の三段滝を訪れました。三段滝から豊富に湧き出す水は、まさに「水源」。近年自然の森でも下層植生が消えている場所は多くみられますが、ここは下草もまだ残っていて、植物の種類も多い場所なので、目を楽しませてくれました。しかし、この場所にもナラ枯れが起きており、どんぐりがほとんど落ちていない現実にも直面しました。

その後は樹齢300年以上というトチノキとカツラの巨木がそびえ立つ場所に行きました。カツラの木からは10mほど離れた場所に車を停めましたが、車から降りるやカツラの特徴でもある砂糖を焦がしたような良い香りが迎えてくれました。地面にどっしりと根を張り力強く枝を広げるトチノキの巨木は触れると神秘的な感覚を抱かせてくれました。最後はトラスト地が一望できるところまで登山道を上り、紅葉真っ盛りの風景を楽しみました。

「松葉さんのお話が聞けて良かった！」「岐阜県の自然のすばらしさに感動！」など感想をいただきました。

根尾越波トラスト地概要

- ・98%が天然林
- ・揖斐川の源流域
- ・標高の高い部分は
ブナ・ミズナラ林

トラスト地を一瞥



黄葉した葉っぱのアーチの中を歩いていきました。



クマが どんぐりを食べた痕



クマの糞



兵庫県戸倉トラスト地内には無数のクマ棚が見られた。クマが食べた痕跡があちこちにありました (2020年12月9日撮影)

奥山保全トラストに託された根尾越波トラスト地

前山主・松葉五郎さんのお話

昭和の敗戦の時、岐阜市の家が焼けてしまい越波へ帰ってきました。厳しい食糧難でした。集落の山には、どこに行ってもトチがあったので、その実をみんなで拾いに行きました。峠の道端は当時みんなクリ林で、クリも地面いっぱい落ちていました。一家で拾ったクリ10俵を米10俵と交換してもらいました。家族11人がなんとか越冬することができました。集落の人もそうして助かりました。うちは祖父が岐阜市で材木の銘木商をしていて、根尾に疎開し天井板をお米やお金と交換してもらうこともありました。倉庫の谷奥の水を利用して水車を回し、丸鋸で木工材を挽きました。当時は女性の櫛が不足していて、原料になるミズメという木を長野県の加工所に送りました。サワグルミも下駄として需要がありました。何度も何度も広葉樹に助けられ、広葉樹は大事にせねばと思い、今まで手をつけずに守ってきたのです。

拡大造林の時代になり、県によって植林が進められました。うちは所有地が大きいので、融資造林としてお金は貸すから植林して下さいと言われ、植林したところもありました。しかし、越波は雪が多く植林には向かない。県からはお金はどれだけでも貸すと言われたが、結局断りました。それから、木曾三川水源造成公社という組織が設立され、岐阜県、三重県、愛知県の合同で岐阜の水源地帯を買うことになり、私の山も対象になったこともありました。所有地の一部を買ってもらいましたが、条件として「集落も私も水を守りたいから、植林は絶対にダメだ。林道もダメだ」と県に言いました。後はたとえお金を借りて植林しても、いつか返さないといけなから全て断りました。こうして今まで山を守ってきたのです。

奥山保全トラストにいつまでもこの山を守っていただいて、白神山地のようなブナの巨木林になるまで育てていただきたい、これが私の望みです。

※ツアーの中でお聞きした松葉さんのお話を事務局で要約しました。

より一層自然林の保全・復元に取り組む一年に

理事長 米田 真理子



初春とはいえ厳しい寒さが続いております。新型コロナウイルスによって影響を受けられている皆様にお見舞い申し上げます。私たちの生活は変化を余儀なくされましたが、今自然界でも大異変が起きています。近年、放置人工林のみならずわずかに残った奥山の自然林においても、ナラ枯れによる巨木の枯死や下層植生の消失、昆虫の消滅、連続的な大凶作など、自然劣化が急速に進行しています。奥山の深刻な劣化が進む中、そのスピードに打ち勝ち、水源の森、豊かな生態系の保全に全力を尽くしたいという思いを新たにしております。今年には生態調査や植生調査などトラスト地や周辺地域での観察・調査を継続して実施し、より一層自然林の保全・回復に努める所存です。

大変な状況の中、変わらず私たちの活動をご支援くださっている皆さまに心より感謝申し上げます。多様な生物からなる奥山水源域は何にも勝る次世代への遺産です。皆様のご支援や思いを形にし、今年も水源の森のナショナル・トラスト、そして調査や保全活動に邁進して、豊かな生命あふれる奥山を開発・荒廃から守っていきます。どうか温かいご支援のほどお願い申し上げます。

クレジットカードで会費・ご寄附のお振込みができるようになりました！

ホームページから
お願いします。

会費：<http://okuyamatrust.org/donation/nyukai>
ご寄附：<http://okuyamatrust.org/donation/kifu>



土地取得・トラスト地管理資金
等にご協力ください

・ゆうちょ銀行振替口座 00920-4-305993
(口座名) 公益財団法人 奥山保全トラスト

三重県大台町 池ノ谷トラスト地 守れ！モリアオガエルの繁殖池！

初夏になると現れる不思議な池

2010年に購入した三重県大台町にある池ノ谷トラスト地(408ha)。ここはモリアオガエルの繁殖池として三重県の天然記念物に指定されています。冬は水がなく、初夏になると地中から水が湧き出てモリアオガエルの繁殖時期に池を作ります。6月には周囲の樹木に白い泡に包まれたたくさんの卵塊が産み付けられ、やがて池めがけてオタマジャクシが落ちていきます。6月～8月、池では無数のオタマジャクシが生育し、カエルになって林に消えていきます。



2014年撮影 池の写真

土砂で池が狭くなる

この池ノ谷の「池」が砂で埋まってきているという地元の方々からの報告が以前からあり、衛星写真で見ると、購入時(2010年)に比べても約30%も面積が狭くなっていました。池の上流側(東側)は緩傾斜の広いスギの人工林になっており、その先は崩壊の進む山の急斜面に連なっています。この緩傾斜地は氾濫原*で、流れてくる水は地中に伏流して池に地下から湧き出します。地元の方の話によると、ここはもともと雑木林でしたが、伐採してスギを植林したとのこと。その結果強い雨のときは表流水が発生して土砂が直接池に流入するようになったようです。「このままでは池が埋まってしまう！」と地元の方も危惧されています。私たちもこの場所を購入したからには、地元から愛されてきたモリアオガエルの繁殖池を守る必要を強く感じました。

*河が作り出した平野



2011年から2018年までのモリアオガエル繁殖池土砂堆積の変遷



↑スギの植林がなされたことで水の流れが変わってしまい、一面が土砂崩れによって川原のようになってしまった。

自然に負荷をかけない工法で

2018年に地元の方から相談を持ちかけられ、その後、当財団の高田直俊理事(土木工学専門)と土砂流入を防ぐ方法の検討を進めました。この池に土砂流入が続くのは、上流の山の斜面の崩壊が続くことと下層植生のないスギの植林が土砂を止める機能がなく、強雨時の表流水が水の集まる滞筋(みおすじ)**を作るためと考えられました。山の斜面の崩壊を止めることは無理ですので、池への土砂流入を防ぐことを検討し、緩傾斜地の等高線に沿って低い堰堤を設け、水の流れ、したがって土砂を氾濫原に広く浅く分散させる方法を採用しました。衛星写真の赤い2本の線がそれです。

**平時に流水が流れている道筋



工事直後の池の様子。植物が生えてきていない部分の土砂を移動させた。↓



植林されたスギを利用して

この堰堤は、鉄線で編んだ四角いかごに石を詰めるフトンカゴを線状に並べる工法を始めに考えましたが、現場にある材料で作ることになりました。それはスギの立木(胸高直径30cm前後)をそのまま杭として使い、スギ丸太2本を横木に、その上流側に粗い石を積み上げる堰です。高さは75cm、幅は約1mです。この堰堤は水を止めずに水の勢いを止めて水を分散させるものです。総工費は324万円で、皆様からのご寄附によってこの保全事業が可能となりました。

工事は地元のカネセ建設が当たり、大型車両を通すために、まず道路の補修工事から始まりました。堰堤の工事とともに、池に流入している小石を含む砂500m³の浚渫をモリアオガエルのオタマジャクシが陸に上がっていない8月末に行いました。



堰堤を池側から見た様子



堰堤を上流側から見た様子

今後、この工事によって池への土砂流入がどれほど止められるのか検証していく必要があります。大雨のあとで地元の協力者の方々に話を聞き、また定点観測をしてモニタリングしていきます。地元の子どもたちへの環境教育の場にもなっているモリアオガエルの繁殖池が今後も維持されるように見守っていきます。